

# 鹿市医郷壇



(479)

樋口 一風 選

兼題 「結婚式(こせんけいせむけ)」

天

上町支部 吉野なでしこ

花婿も目を剥でちよった高島田  
(唱) 凄いか美人にまた惚れ直えっ  
結婚式場の花嫁はどんな女性でも、美しく見えます。ましてや自分の嫁さんです、美しくないはずがありません。文金高島田の花嫁を見て、花婿の目は点になりました。かねての彼女とは別人のようです。もっとも最近、前撮りがあるそうですが、でも雰囲気が違うと別人みたいに映るでしょう。  
ドレスの花嫁も良いですが、やはり日

本の女性には、振袖に文金高島田が似合います。「目を剥く」の「目を剥でっ」が効きました。

地

醤油屋孫一

結婚式でドレスを着ろちダイエツト  
(唱) 一生で一度ん花嫁じゃつて  
高価で、ドレスをオーダーメイドと言う訳にはいかないし、貸衣装となると体形をドレスに合わせなければならぬので、ふつから系のお嬢さんは大変だと思っています。

一生に一度の華燭ですから気に入ったドレスを着たいのはあたりまえのことでしょうが、かなり体重を減らさなければなりません。よくあることをさりとて詠んであります。

人

伊敷支部 谷山五郎猫

多け友達(おとも)の結婚式(こつ)続き貧乏者(ひん)しえなつ  
(唱) 浮世(うきよ)ん義理(ぎり)で我家(わがや)だ火(くま)の車(くるま)  
最近(さいきん)の結婚式(こつ)のお祝儀(いわいぎ)は幾ら包むのかわかりませんが、某山(むくやま)の上(うへ)のホテル(ほてる)などだと、かなり包まないと恥(はづか)をかくなのでは

と思います。年に何回も結婚式があれば、かなりの出費です。句では貧乏者(ひん)になつたと気持ちを強調してあります。

五客一席

清滝支部 鮫島爺児医

腹(はら)ん子が結婚(こい)を催促(せ)つ式(しき)く挙(あ)げつ

(唱) 早(は)え方が良(よ)かち親(おや)は喜(よろこ)ぶ

五客二席

霧島 木林

目(め)出度(で)でどん結婚式(こつ)続き痛(いた)て出費(だしめ)

(唱) 安(やす)しか給料(はら)れでな財布(さいふ)あ空(か)れなつ

五客三席

清滝支部 鮫島爺児医

結婚式(こつ)を比較(くら)べられちよい引出物(ひきだめ)

(唱) 良(よ)か品(しな)を貰(もら)るつ儲(も)けた氣(き)がしつ

五客四席

紫南支部 二軒茶屋電停

結婚式(こつ)を二度(にど)も挙(あ)ぐれば慣(な)れたもん

(唱) ベテラン(べてらん)じゃつてずうず済(す)ませつ

五客五席

印南 本作

有(あ)い難(が)ち結婚式(こつ)挨拶(あいさつ)ち出(だ)い涙(なみだ)

(唱) 親(おや)い感謝(かんしゃ)がしんみいさせつ

## 秀逸

清滝支部 鮫島爺児医

結婚式(こつ)は二度(にど)はせんこて盛大(ふう)と挙(あ)げつ

結婚式(こつ)を覚え(おぼ)えちよらんち女房(にようばう)あ小言(くげ)

結婚式(こつ)は昼間(ひるま)め済(す)ませな大(おほ)て忙(いそ)しこ

結婚式(こつ)が増(い)れば嬉(うれ)し子(こ)も増(い)つ

結婚式(こつ)あ祝儀(いわいぎ)が大(おほ)かでした(し)が得(とち)

上町支部 吉野なでしこ

色直(いろなお)しまこて忙(いそ)しか花嫁御(はなよめ)

始め(はじめ)かあ嫁御(よめ)ん父(ちち)な泣(な)つかぶつ

伊敷支部 谷山五郎猫

大安(さい)の祭場(まつりば)見えドレスん花(はな)が咲(さ)けつ

結婚式(こつ)ん綺麗(きれい)なドレスい霞(かすみ)ん婿(むこ)

空模様(そらもよう)は狐(きつね)の嫁入(よめい)迷(まよ)た傘(かさ)

結婚式(こつ)あ挙(あ)げんち言張(ことば)つ親不孝(おやうや)

霧島 木林

結婚式(こつ)い度々(たびたび)出席(でしき)てん未(ま)だ独身(ひとり)

印南 本作

結婚式(こつ)を何処(どこ)ですいか揉(も)めさせつ

醤油屋孫一

多(う)け親戚(しん)じ結婚式(こつ)ん祝儀(いわいぎ)へ金(かね)が要(い)つ

結婚式(こつ)はまだかち婆様騒(ばさまさわ)しゆし

作句道場

樋口 一風

「結婚式(こつ)が済(す)んだ思(おも)もたや離婚騒(わかれさわ)動(どう)」

という句(く)がありました。皮肉(わがや)の利(き)いた面白(おもしろ)い句(く)です。

自由吟(じゆうぎん)だつたら上位(うへい)に入選(にゅうせん)する佳吟(かぎん)です。でも兼題(けんだい)が、「結婚式(こつ)」なのに結婚式(こつ)と離婚(りこん)が並列(へいれつ)になっています。この句

は結婚式(こつ)を詠(よ)んでいるのか、離婚騒(わかれさわ)動(どう)を詠(よ)んでいるのか分かりません。むしろ「離婚騒(わかれさわ)動(どう)」が強(よ)くなっています。兼題(けんだい)の時(とき)は兼題(けんだい)だけを題材(たいざい)にして詠(よ)みましよう。なお「結婚式(こつ)」は「こぜむけ」または、「こぜんけ」と発音(はつおん)します。また「よめじょもれ」とも言(い)います。

薩摩郷句鑑賞 121

薩摩狂句暦 三條風雲児著(さんじょうふううんこ)から

横(よん)ご親(お)へ何度(なんど)か迷(まよ)た貰(もら)れ相談(さうだん)

長瀬ヨシ子

子どもというのは、当然(たうぜん)育てた親(おや)に似(に)てくるから、昔(むかし)から「嫁(よめ)を貰(もら)るときゃ、

## 薩摩郷句募集

12号

題吟 「除夜(としのばん)」

締切 令和元年11月5日(火)

新年号

題吟 「夢(ゆめ)」

締切 令和元年12月2日(月)

選者 樋口 一風

漢字(かんじ)のわからない時は、カナ(かな)で書いて応募(おんぷ)くだされば選者(せんしや)が適宜(てきぎ)漢字(かんじ)をあててくださいます。

応募先 千八九二・〇八四六

鹿児島市加治屋町三番十号

鹿児島市医師会 鹿児島市医報 編集係

TEL 〇九九・二二六・三七三七

FAX 〇九九・二二五・六〇九九

E-mail : ihou@city.kagoshima.med.or.jp